

令和元年 10 月 24 日

保護者様

川崎市立西中原中学校

校長 安部 賢一

平成 3 1 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果概要と本校の取組について

日ごろより本校の教育活動にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

本年 4 月に文部科学省が主催する全国学力・学習状況調査が全国一斉に行われ、本校 3 学年の生徒も参加しました。このたび、全国、神奈川県、および本校の集計結果が届きましたので、その一部を抜粋してお知らせします。なお、3 年生一人ひとりの結果（個人票）については、先ごろ行われた前期末の三者面談で配付しています。

<調査の概要>

1. 調査の目的： 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。（要約）
2. 調査の対象： 国公立学校の小・中学校 6 学年、中学校 3 学年および同等の児童生徒
3. 中学校 3 学年に関する調査事項：
 - ア) 教科に関する調査 国語、 数学、 英語
 - イ) 質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の側面に関する質問
4. 実施日： 平成 3 1 年 4 月 1 8 日（木）
5. 参加者数： 4 3 9 人（全国で 9 3 8, 8 8 8 人）

今年度は教科に関する調査において、従来の国語、数学に加えて初めて英語が加わりました。毎年実施される国語、数学に対し、理科と英語は概ね 3 年に 1 回程度の実施となっています。

また、英語では今回「話すこと」調査（スピーキングテスト）が初めて導入されました。

なお、この調査によって測定できるのは学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎません。したがって、今回の調査結果は本校の成果と課題を把握するための一つの指標として捉えており、結果の分析を経てこれからの本校の教育活動に生かしていきたいと考えています。

<本校の学校教育目標>

調査結果は、本校の学校目標と経営方針に照らしながらその到達度の一指標として扱い、成果と課題を分析する基礎資料となります。本校の学校教育目標は以下の通りです。

●校訓

「耐える力」：自分の可能性を信じ続け目標に向かって最後までやり抜く力

「探る心」：物事の本質と意義を深く掘り下げて見極めようとする気持ち

●心得

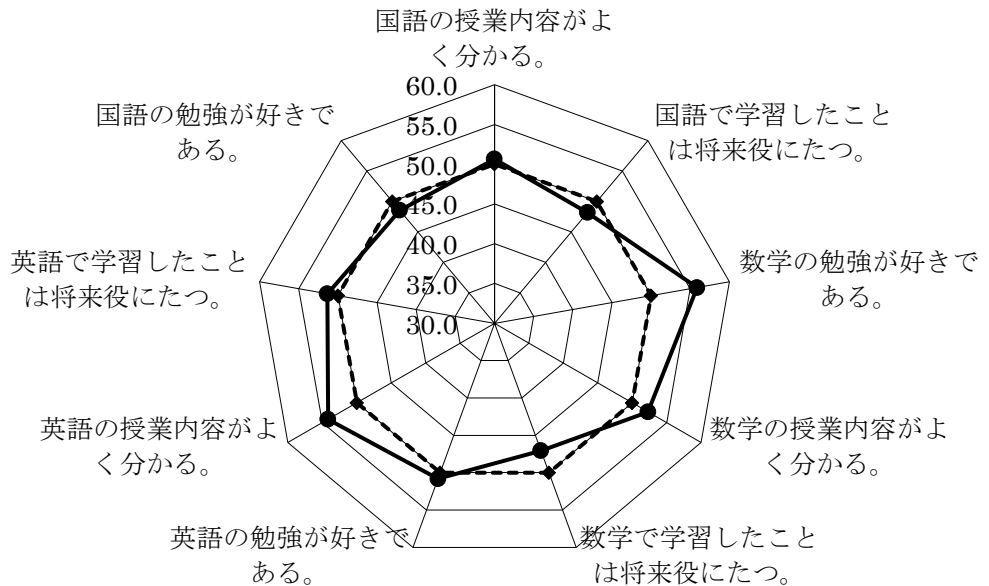
(1) しっかり勉強しよう (2) 正しい行動をとろう

(3) 美しく豊かな心をもとう (4) からだを鍛えよう

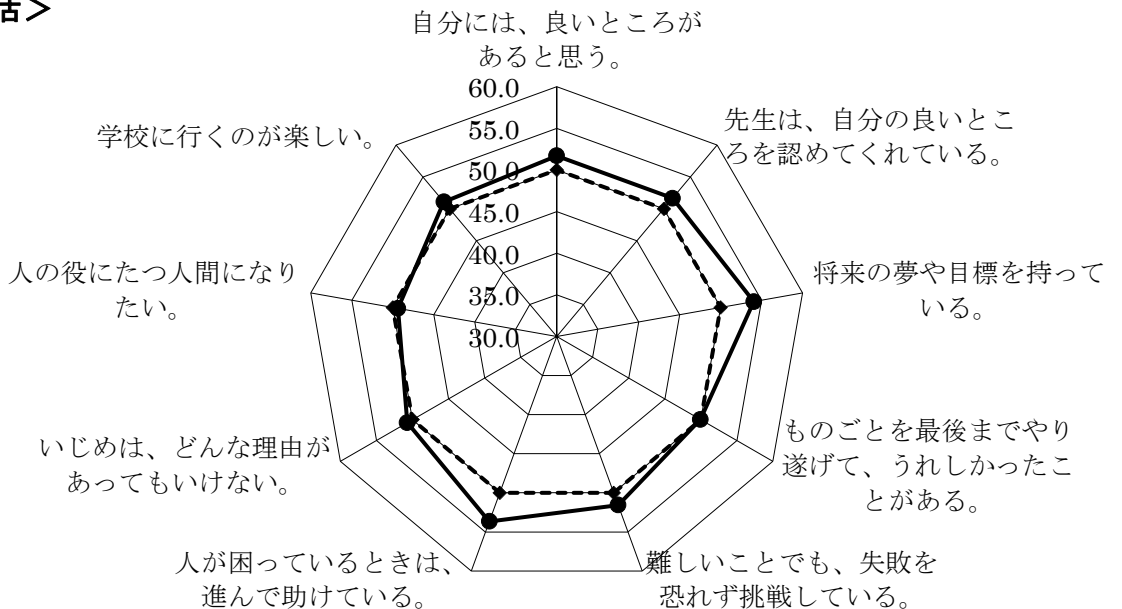
このうち、(1)を教科に関する調査結果より、(2)、(3)を質問紙調査結果より抜粋し、それぞれ<教科学習>と<学校生活>に分けてその達成度をお知らせします。

1 調査結果概要 ※全国平均を50(点線)とし、それに対する本校の結果(実線)を表しています。

<教科学習>



<学校生活>



2 調査結果をもとにした〈教科学習〉の結果

(1) 国語の調査結果

【グラフに引用した質問紙調査項目】

- 国語の勉強が好きである。
59.9% (−1.8 ポイント)
- 国語の授業の内容がよく分かる。
78.6% (+1.0 ポイント)
- 国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役にたつと思う。
84.8% (−3.2 ポイント)

【教科に関する調査の領域別平均正答率】

- 「話すこと・聞くこと」の領域
78.8% (+8.6 ポイント)
- 「書くこと」の領域
88.8% (+6.2 ポイント)
- 「読むこと」の領域
75.6% (+3.4 ポイント)
- 「伝統的な言語文化と国語の特質」の領域
72.2% (+4.5 ポイント)

※質問紙調査の数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計（達成度）です。

※数値の（ ）内のポイントは全国平均と本校との差です。

【分析の概要と今後の取組】

教科に関する調査の領域別正答率では「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域で有意に高い数値となっていますが、一方「読むこと」に関する正答率が前者に比べて正答率が低く、文章の展開に即して情報を整理し、内容を把握することに課題があると捉えています。質問紙調査における国語に対する生徒の意識に関する結果を念頭に置き、教科の魅力をさらに発信して有用感とともに各領域の向上を図りたいと考えています。

(2) 数学の調査結果

【グラフに引用した質問紙調査項目】

- 数学の勉強が好きである。
64.7% (+6.8 ポイント)
- 数学の授業の内容がよく分かる。
77.3% (+3.4 ポイント)
- 数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役にたつと思う。
71.7% (−4.5 ポイント)

【教科に関する調査の領域別平均正答率】

- 「数と式」の領域
71.5% (+7.7 ポイント)
- 「図形」の領域
81.5% (+8.9 ポイント)
- 「関数」の領域
43.8% (+3.0 ポイント)
- 「資料の活用」の領域
61.5% (+5.2 ポイント)

※質問紙調査の数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計（達成度）です。

※数値の（ ）内のポイントは全国平均と本校との差です。

【分析の概要と今後の取組】

教科に関する調査の領域別正答率はいずれも全国平均を上回っていますが、評価の観点から見た「数学的な見方や考え方」の正答率(57.7%)には課題が残り、質問紙調査における教科の有用性の低さと連動していると考えられます。今後は日常生活や社会に数学的な視点をもった学習活動を充実させて、数学的な見方や考え方の定着を図っていききたいと考えています。

(3) 英語の調査結果

【グラフに引用した質問紙調査項目】

○ 英語の勉強が好きである。	56.9% (+0.9 ポイント)
○ 英語の授業の内容がよくわかる。	71.5% (+5.5 ポイント)
○ 英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役にたつと思う。	87.7% (+2.3 ポイント)

【教科に関する調査の領域別平均正答率】

○ 「聞くこと」の領域	72.9% (+5.0 ポイント)
○ 「話すこと」の領域【参考値】	32.0% (+1.2 ポイント)
○ 「読むこと」の領域	63.3% (+7.7 ポイント)
○ 「書くこと」の領域	55.6% (+9.8 ポイント)

※質問紙調査の数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計（達成度）です。

※数値の（ ）内のポイントは全国平均と本校との差です。

【分析の概要と今後の取組】

質問紙調査における英語に対する生徒の意識、および教科に関する調査の領域別正答率ともに全国よりも上回っていますが、苦手意識を持つ生徒へのていねいな対応とともに、領域別では「書くこと」、また今年度初めて実施された「話すこと」などに対し、生徒一人ひとりが自信を持って取り組めるようにしていく必要があると考えています。

3 調査結果をもとにした〈学校生活〉の結果

【グラフに引用した質問紙調査項目】 ※数値の（ ）内のポイントは全国平均と本校との差です。

① 学校に行くのが楽しい。	83.7% (+1.8 ポイント)
② 自分には、良いところがある。	76.6% (+2.5 ポイント)
③ 先生は、自分の良いところを認めてくれる。	84.2% (+2.7 ポイント)
④ 将来の夢や目標を持っている。	76.2% (+5.7 ポイント)
⑤ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	93.8% (-0.1 ポイント)
⑥ 難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している。	72.5% (+2.2 ポイント)
⑦ 人が困っているときは、進んで助けている。	92.2% (+6.3 ポイント)
⑧ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.5% (+1.4 ポイント)
⑨ 人の役にたつ人間になりたいと思う。	93.1% (-1.2 ポイント)

【分析の概要と今後の取組】

多くの生徒が部活動をはじめ充実した学校生活を送っている一方、この数字に含まれない少数の生徒への支援をより充実させていきたいと考えています。本校としては全国との比較に惑わされることなく、いずれの項目も100%をめざして、引き続き学級・学年活動や部活動、生徒会活動と指導の充実を図りたいと考えています。

＜川崎市教育委員会から＞

西中原中学校では耐える力と探る心を校訓として、生徒の学習や行動、心身の成長を意識して対話的な授業づくりを進めています。また教科の魅力を発信し、日常生活や社会と結び付けた活動を通し、教科の有用感を高めていくよう努めています。行事や部活動のみならず、登校支援や学習支援にも力を入れ、生徒一人ひとりを大切にしていることが伺えます。これが将来の夢や目標を持つ生徒、困っている人を助ける生徒の数値の高さに繋がっていると考えています。(学校教育部中原区・教育担当)